

< 特別稽古 >

英語道・弟子 (disciple) M.U.

ベートーヴェン作曲

交響曲第5番 ハ短調 作品67 《運命》の超・鑑賞経験

2014年3月21日

銀座書齋にて。

1. 心の準備

事前の英語稽古から当日までの間、生井先生が「私のために貴重な時間を割いて考え、選んで下さったのは、朝比奈隆先生の指揮による作品でした。

これは、初めて私が銀座書齋において鑑賞させていただいたもので、私にとって多くの意味で初心に返ることもできる第5番の中で最も思い出深い作品です。

奥の聖域で準備いただいている間、弟子として新たなスタートを切った私への先生からの深いメッセージを感じながら心を整えるよう努めていました。

2. 超・鑑賞経験

奥に通じていくと、そこには聖域を表象する絵画が数点飾られていました。

「今からこの場所で偉大な作品を鑑賞させていただくのだ」と考えると、文明・文化・時代を超越し、今なお残る芸術作品への畏敬の念を抱かずにはいられませんでした。

また、初回同様、先生のお隣に身を置かせていただけたことで、そこに漂よう厳格な空気感をより強く感じていました。

今回の鑑賞で私が感じたのは「孤独感」でした。

強い意志をもつ本物の人間であれば、毎日24時間自分との闘いです。

高い壁に直面しても、自分でなんとかその壁を乗り越えられるよう考えるしかありません。

しかし、だからこそ自分自身をしっかりと感じ、強く生きていくのは正しいかと考えます。

また、朝比奈先生による優雅な雰囲気も含め持つ第5番からは、お人柄が反映されているのでしょう。「愛情」や「感謝の思い」といった温かいものも感じました。

そして最後には意志をもつことの重み、意志の力の素晴らしさを感じ、生きる希望を頂くことができました。

3. 懇談

テーマ: バートランド哲学を介して考える「一人の人間としての『生』」

今回、「真の理性的存在者として生きるとはどういうことか」を
生井先生は社会貢献活動を例にお話し下さいました。

現在、多くの企業が社会貢献を企業理念に掲げています。

私はそのことに対し、日頃から違和感を覚えています。

真の社会貢献活動は、凡人が安易に行動にうつせる
ようなものではなく、先生の場合、ご自身のことを「職人」と
思い行っているとのこと。

他者の幸福のための活動を通して生じる憤りや心の痛みを
感情に理性で蓋をし、ひたすら続ける。

真の根的に人に見えないところで行っていても、
本物であれば「いつか必ず」人はついてきてくれる。

こうした活動の中に「尊厳」をみつけられるのだと
改めて感じました。

この他にも長時間に渡り、今後の学習のヒントとなる
お話しを伺うことができましたので、参考にしながら
今後にかかしていきたいです。